

学校法人 法泉寺学園
令和3年度 事業報告書

課題

- ① 新型コロナウイルス感染対策
- ② 人材確保
- ③ 保育内容の充実

報告

- ① 令和2年3月の緊急事態宣言に始まる新型コロナウイルス対策により、令和3年度は幼稚園の行事や保育内容は、令和2年度に引き続き変更を余儀なくされたものの、コロナ前に行っていた行事を全て行うことを目標に掲げ、内容や参観方法をコロナ仕様に変更しながら全ての行事を予定通り行うことができた。にもかかわらず、昨年度から続く園児数の減少を止めることはできず、令和4年度も前年比23名減となってしまった。コロナ禍で保護者とのコミュニケーションが不足しており、保育や行事の進め方を十分に周知できなかつたこと、また、令和3年度に行った保育料上乘せ徴収分の値上げも少なからず影響していると考えられる。
- ② 令和4年度に向けて複数人の採用を目標にしていたが、全国的な人材不足と優秀な人材を求めた結果、残念ながら正職員1名の採用にとどまった。しかし、令和3年度後半に経験者のフルタイムパートを複数採用することができ、正職員のサポート役として大いに力を発揮してくれている。令和4年1月より岸田総理大臣が掲げた「処遇改善特例手当」の支給も始まり、より充実した給与と職員の定着率の高さが強みとなっている。
- ③ 幼稚園型認定こども園に移行して以降、子どもたち・保護者・職員が混乱しないよう配慮しながら進めてきた。しかし、コロナ前の令和元年度と比較すると令和4年度は園児数が40名近く減少している。保護者の声をリサーチすると、目標を決めて毎月行っていた園外保育（遠足）、北摂有数の広さを誇る運動場で子どもたちだけでなく保護者も積極的に参加して行っていた運動会、大きなホールを使ってのコンサートのような音楽会、といった粟生幼稚園ならではの保育内容を期待する声が多い。コロナ禍でこうした粟生幼稚園の強みを生かした保育ができなかつたことが悔やまれる。